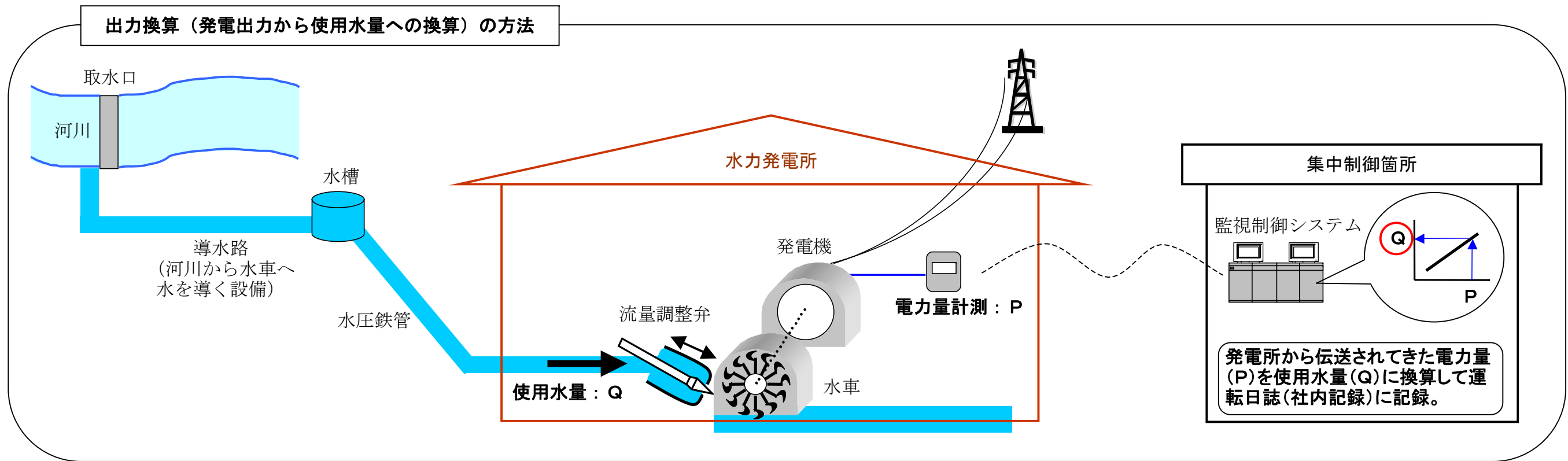


使用水量・取水量報告におけるシステム上の不適切なデータ処理の概要



**データ処理の概要**

- 水力発電所では、設定された発電出力目標値に対し、河川流量や水位の変化に応じて制御されているが、制御遅れや不感帯の影響等により、変動や揺らぎなく制御することは技術的に不可能であり、発電出力の計測値が、発電出力目標値をわずかに超過する場合がある。
- こうした制御技術上の課題への対応として、過去に、監視制御システムのプログラムにおいて、発電出力の計測値が最大出力を超えた場合、発電出力を最大出力に置き換え、記録するという処理が行われていた。
- これに伴い、出力換算で求められる「使用水量」についても、置き換えられた発電出力をもとに換算されたデータが記録されており、水利使用規則に基づく定期報告においては、このデータをもとに「使用水量」、「取水量」の報告データが作成されていた。

**原子力不祥事以降、現在までの状況**

- 平成14年の原子力不祥事の公表を契機にこの問題を取り上げ、このような機能を削除するためのプログラム改修を順次実施し、平成16年度末までにこれを完了した。
- 平成17年度以降、出力超過した場合も実際の出力が記録され、これに伴い使用水量についても実際の値が記録されるようになっている。

**データ処理の例**

